

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(1)国際戦略総合特区(3/7)

| | 総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算) | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | 総合評価に係る専門家所見(主なもの) |
|-----------------------------------|-----------------------------|--|--|-----------------------|---|
| | | 目標に向けた取組の進捗 | 支援措置の活用と地域独自の取組の状況 | 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決 | |
| グリーンアジア国際戦略総合特区 (福岡県、北九州市、福岡市) | 4.0 | 3.5 進捗度 ・当地域が貢献する環境を軸とした産業の年間売上高63% ・特区に係る支援措置を活用して設備投資を行った企業数91% | 4.0 規制の特例等 ・圧縮水素運送自動車複合容器・附属品に対する刻印方式の特例の創設等 財政支援等 ・総合特区推進調整費 ・総合特区設備等投資促進税制等 地域独自の取組 ・福岡県北部九州自動車産業アジア先進生産拠点推進事業等 | 4.3 | <p>・コロナ禍にもかかわらず例年通り順調に成果を積み上げていると判断できる。</p> <p>・環境産業の売り上げ、設備投資企業について、新型コロナウイルス感染症の状況下での進捗を評価したい。財政支援、税制支援の活用の努力も評価される。</p> <p>・水素を活用する脱炭素社会システムの先導的な社会実装のプロセスが実現していること等極めて重要な成果が得られていると聞いている。それらの情報を定性的な記述でもよいので、特区側からの評価の中でもご紹介いただきたい。</p> <p>・地域独自の取組の状況及び自己評価においては、実績のバラツキが見られている。実績が低迷した事業においては、次年度に向けての具体的改善策の構築を期待する。</p> |